

人材育成事業

1. 人材育成事業の概要

1.1 初任者向け災害廃棄物処理説明会

初任者向け災害廃棄物処理説明会を開催した。開催概要は次のとおりである。

図表 6-1 初任者向け災害廃棄物処理説明会の開催概要

開催日時、場所、 参加者数	プログラム
令和5年5月31日(水) 13:30~16:35 AP 大阪茶屋町 I+J ルーム (オンライン同時配信) 参加者数：102名 ・集合参加：19名 ・オンライン参加：83名 ※対象：近畿ブロックの 市町村等初任者	◇主催者あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根正慎 ◇講演1 「災害廃棄物処理の概要」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 林篤嗣 ◇講演2 「災害廃棄物処理現場の実態」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 災害廃棄物対策専門員 若林完明 ◇講演3 「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 係員 磯野祐輔 ◇講演4 「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 井上昭男

1.2 課題別研修会

「集積所と仮置場の違いと設置・運営・管理の実情」をテーマとして受援側、支援側の立場からの事例紹介を課題別研修会として開催した。開催概要は次のとおりである。

図表 6-2 課題別研修会の開催概要

開催日時、場所、参加者数	プログラム
<p>令和5年8月25日(金) 13:30~16:00</p> <p>AP 大阪駅前 AP ホール I (オンライン同時配信)</p> <p>参加者数：77名 ・集合参加：18名 ・オンライン参加：59名 ※対象：近畿ブロックの市町村・一部事務組合のご担当等</p>	<p>◇主催者あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根正慎</p> <p>◇講演1 「災害廃棄物仮置場の選定 (その考え方と実際)」 公益財団法人 廃棄物・3R研究財団 研究参与 高田光康</p> <p>◇講演2 「近年発生した災害における仮置場の設置・運営状況」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 調査官 奥田孝史 係員 磯野祐輔</p> <p>◇参加者による意見交換(パネルディスカッション) パネリスト：廃棄物・3R研究財団 研究参与 高田光康氏 滋賀県循環社会推進課 主任主事 桐畑孝佑氏 茨木市資源循環課 連携調整係長 岸本美香保氏 会：応用地質株式会社</p>

参考) 近畿地方環境事務所セミナー等一覧 (過年度)

年度	区分	セミナー等表題・講師
令和4	・初任者向け災害廃棄物処理説明会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物処理の概要」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林 篤嗣
		「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 近畿地方環境事務所資源循環課 係員 磯野 祐輔
		「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所資源循環課 首席廃棄物対策等調査官 井上 昭男
	・中小規模市町村を対象とした研修	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害時におけるトイレ・し尿処理対策」 大正大学 地域創生学部 地域創生学科 教授 岡山 朋子氏
		「災害時のし尿処理施設の対応に係る課題と対策」 大洲市環境センター 次長 森岡 照久氏 大洲・喜多衛生事務組合 専門員兼業務係長 白石 学氏
	・災害廃棄物処理担当者向け勉強会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「令和2年7月豪雨における収集運搬の対応とその課題」 熊本県八代市 循環社会推進課 課長 田中 和彦氏
		「支援側の立場から見た収集運搬の課題と今後の対策」 京都府京都市 環境政策局 山科まち美化事務所 所長 関 義樹氏
		「災害廃棄物の収集運搬の実情」 広島県広島市 環境局業務部業務第一課 主査 金近 尚憲氏
		参加者による意見交換 「収集運搬の支援と受援のよりよい協働のあり方」 パネリスト：田中 和彦氏、関 義樹氏、金近 尚憲氏 司会：近畿地方環境事務所 若林 完明氏
令和3	・初任者向け災害廃棄物処理説明会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物処理の概要」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林 篤嗣
		「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 近畿地方環境事務所資源循環課 上野 友輔
		「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所資源循環課 首席廃棄物対策等調査官 井上 昭男
	・災害廃棄物処理担当者向け勉強会 近畿ブロック第1回	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物に係る住民啓発の取組み」 茨木市産業環境部資源循環課 連携調整係 係長 岸本 美香保氏
		「災害発生時の行政事務について」 横浜市資源循環局 産業廃棄物対策課 監視指導担当課長 茶山 修一氏
	・災害廃棄物処理担当者向け勉強会 近畿ブロック第2回	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物アプリを用いた研修」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏 京都大学大学院地球環境学堂 教務補佐員 益田 明奈氏

年度	区分	セミナー等表題・講師
		「災害廃棄物処理における災害ボランティアとの連携」 特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長 明城 徹也氏
令和 2	セミナー ・災害廃棄物処理 の実態と廃棄 物対策に伴う 啓発・支援	「災害廃棄物処理における災害ボランティアの活躍」 内閣府防災担当参事官補佐 市川 琢己氏
		防災落語「それ、ゴミやおまへんで、被災財でっせ」 ゴスペル亭パウロ防災士・関西キリスト災害ネットワーク クリスチャン防災士ネットワーク世話人 小笠原 浩一氏
		「災害廃棄物に対する市民の行動促進に向けた戦略」 国立研究開発法人国立環境研究所特別研究員 森 朋子氏
		「災害廃棄物処理現場からの報告」 公益社団法人全国都市清掃会議総務部長 大川 敏彰氏
研修・学習会 ・風水害に係る 災害廃棄物対 策勉強会	「平成26年8月豪雨及び平成30年7月豪雨における広島市災 害廃棄物処理」 広島市環境局 業務部長 林 篤嗣氏	
	「災害発生時の行政事務を徹底解説～ダイヤモンドプリンセス号 の廃棄物対応から得られた知見も交えて～」 横浜市資源循環局 車両課長 茶山 修一氏	
令和 元	セミナー ・頻発する多様な 災害による災 害廃棄物処理 の課題と人材 育成	「近年の災害における廃棄物対策(台風19号に伴う福島県の災害 廃棄物対応を交えて)」 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 審査官 切川 卓也氏 京都府府民環境部循環型社会推進課 循環・リサイクル担当技師 増田 清孝氏 奈良県くらし創造部景観・環境局環境政策課 主任主事 栗原 智也氏 京都府京都市環境政策局循環型社会推進部まち美化推進課 課長 宮本 博市氏 大阪府堺市環境局環境事業部環境事業管理課 主査 福田 智秋氏
		「災害に強い廃棄物処理システムをつくる」 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 多島 良氏
		「住民に寄り添った災害廃棄物対応に向けて」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏
	研修・学習会 第1回 (初任者研修)	「平成27年9月関東・東北豪雨の経験から」 茨城県常総市産業振興部生活環境課課長補佐 渡邊 高之氏
		「災害廃棄物処理行政事務のあらまし」 横浜市資源循環局車両課長 茶山 修一氏
	研修・学習会 第2回 (解体廃棄物学 習会)	「熊本地震における災害廃棄物処理事業(公費解体)への取組に ついて」 熊本市経済観光局観光交流部副課長 住谷 憲昭氏
		「被災建物の公費による解体撤去と事務について」 横浜市資源循環局車両課長 茶山 修一氏
平成 30	セミナー 第1回 ・大阪北部地震に おける災害廃 棄物対策につ いて 他	「災害廃棄物対策指針改定及び平成30年7月豪雨災害における廃 棄物対策について」 環境省近畿地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物処理に関する被災者の意識や行動について」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏
		「大阪北部地震における災害廃棄物対策について」 大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課 参事 奥田 孝史氏
		「被災自動車の処理に係る手引書・事例集(自治体担当者向け)」

年度	区分	セミナー等表題・講師
	セミナー 第2回 ・頻発する自然災害における自治体の廃棄物処理対策	「について」 (公財)自動車リサイクル促進センター MS&AD インターリスク総研株式会社リスクマネジメント第一部 災害リスクグループマネジャー 上席コンサルタント 本間 基照氏
		「多発する大災害での廃棄物処理の現況—自治体の災害対応でどう位置付けられているか。ハリケーン・イルマへの対応と比較して—」 神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授 安富 信氏
		「産官学が連携し、オール関西で災害に備える！」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏
		パネルディスカッション 「頻発する災害と近畿圏の被害、災害廃棄物処理対策」 ◎コーディネーター： 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏 ◎パネラー（順不同）： 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 教授 安富 信氏 大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課 参事 奥田 孝史氏 舞鶴市市民文化環境部環境対策室 室長 平野 広道氏 堺市環境局環境事業部環境事業管理課 主幹 水谷 臣氏 近畿地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 課長 山根 正慎 応用地質株式会社地球環境事業部資源循環マネジメント部 部長 眞鍋 和俊氏
平成 29	セミナー	「災害廃棄物対策の最新事情」 公益財団法人 廃棄物・3R研究財団 研究参与 高田 光康氏
		「東日本大震災における災害廃棄物処理の実態」 気仙沼市 市民生活部廃棄物対策課 課長補佐 佐藤 克美氏
		「事業者が考える災害廃棄物処理対応 —船舶を用いた災害廃棄物処理について—」 大栄環境株式会社 営業部 課長代理 早川 宏明氏
平成 28	セミナー	「災害廃棄物処理の適切な初動対応に向けて」 国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター・ 災害環境マネジメント戦略推進オフィス 研究員 多島 良氏
		「東日本大震災 現場からの証言 復興に向けての課題と提言」 一般社団法人仙台建設業協会 副会長 深松 努氏
		「災害廃棄物処理の実効性・安全性・信頼性向上に向けて」 京都大学大学院 地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏
平成 27	セミナー	「大規模災害廃棄物処理について～東日本大震災等の事例から～」 一般財団法人 日本環境衛生センター西日本支局 環境工学部 技術審議役 宗 清生氏
		「東日本大震災により発生した災害廃棄物等の処理について ～実績と今後の課題について～」 鹿島建設株式会社 東北支店 富岡町廃棄物処理業務 副所長 松原 武志氏
平成 26	セミナー	「東日本大震災津波により発生した災害廃棄物の処理における 岩手県の取組について～被災自治体の取組とは～」 岩手県環境生活部廃棄物特別対策室 特命課長 千葉 実氏
		「東日本大震災により発生した災害廃棄物等処理への取組み ～何が起こり、どのように処理し、何が活かせるのか～」 株式会社奥村組東北支店 技術部長 埜本 雅春氏

注. 所属、職位は実施時点のもの

2. 参加者アンケート

説明会や研修会の参加者向けにアンケートを実施した。

アンケート結果を以下に示す。なお、本章の表中、合計値については、四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

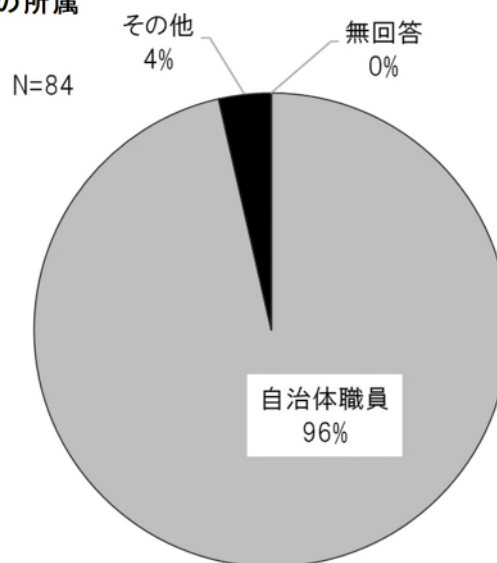
(1) アンケート結果（初任者向け災害廃棄物処理説明会）

①参加者の所属

アンケート回答者は自治体職員が96%、その他が4%であった。

図表 6-3 参加者の所属

所属	回答数	回答率
自治体職員	81	96%
その他	3	4%
無回答	0	0%
合計	84	100%

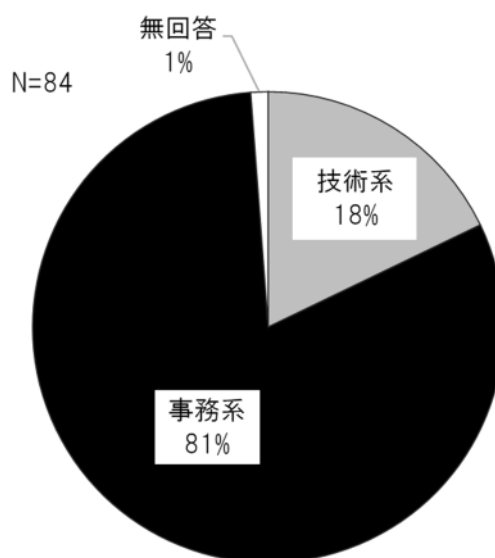


②参加者の職種

アンケート回答者の職種は、81%が事務系、18%が技術系であった。

図表 6-4 参加者の職種

職種	回答数	回答率
技術系	15	18%
事務系	68	81%
無回答	1	1%
合計	84	100%



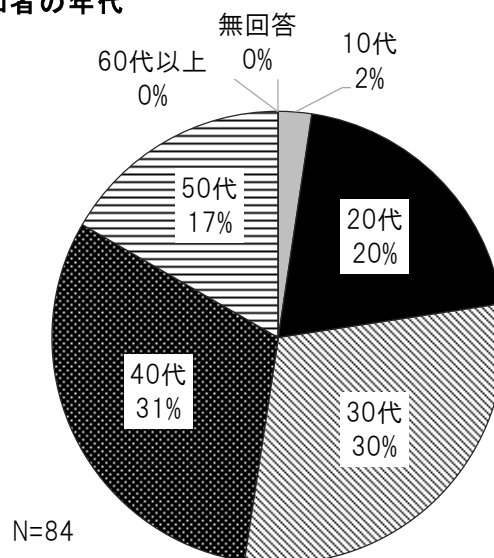
③参加者の年代

アンケート回答者の年齢は、40代が31%、次いで30代が30%、20代が20%であった。

図表 6-5 参加者の年代

参加者の年齢	回答数	回答率
10代	2	2%
20代	17	20%
30代	25	30%
40代	26	31%
50代	14	17%
60代以上	0	0%
無回答	0	0%
合計	84	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



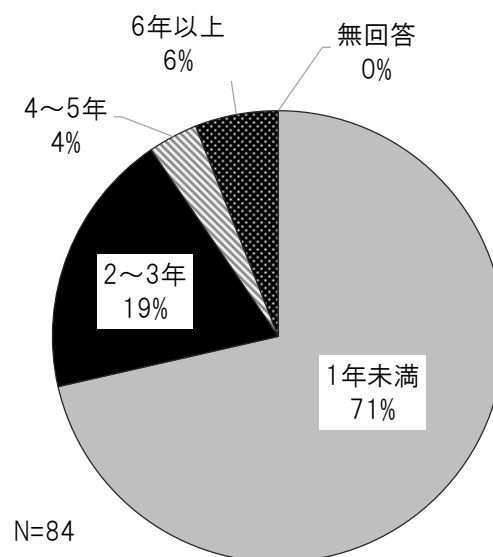
④参加者の現在の部署の所属年数

アンケート回答者の所属年数は、71%が1年未満、次いで2~3年が19%、4~5年、6年以上を合わせた4年以上が10%であった。

図表 6-6 参加者の現在の部署の所属年数

参加者の年齢	回答数	回答率
1年未満	60	71%
2年~3年	16	19%
4~5年	3	4%
6年以上	5	6%
無回答	0	0%
合計	84	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



⑤災害廃棄物処理対策の事前の備えの必要性意識の変化

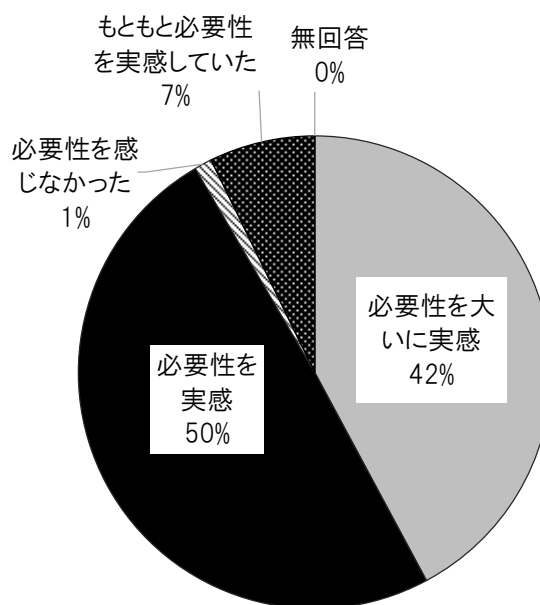
説明会参加前後の意識の変化は、説明会を受講し必要性を「大いに実感」、「実感」した回答が92%であった。

説明会を通じて災害廃棄物処理対策の事前の備えに対する意識の向上につながったと考えられる。

図表 6-7 事前の備えの必要性意識の変化

項目	回答数	回答率
必要性を大いに実感	35	42%
必要性を実感	41	50%
必要性を感じなかった	1	1%
もともと必要性を実感していた	6	7%
無回答	0	0%
合計	83	100%

注) 複数回答は無効票として対象外とした (1票)



N=83

図表 6-8 各講演に対して興味を持った事項等

講演 1

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	実際の事例は参考になった。
2	全体的に詳しく聞きたい内容であったため、非常に参考になった
3	参考になった
4	平常時に最低限行うべきこと
5	平時の準備の重要性について、非常に参考になった。
6	廃棄物対策職員が2人である当自治体にとっては、何とも実現可能性の低い内容であることだと改めて感じた。
7	全て参考になった。
8	初動対応の必要性などが分かりやすい順序立った説明だった。
9	災害時の産業廃棄物処理について自治体の実行計画にて明記しておくのがベストであることについて大変参考になった。
10	概要について理解できた
11	排出場所と収集運搬の3パターンの検討は非常に参考になった
12	平常時に行うべきことが参考になった
13	1次仮置場と2次仮置場の違いが、いまいわからない仮置場について、発災後ではなく、発災前の候補地リスト化の時点で、市町村有地では足りない際の、都道府県有地、国有地の支援が欲しい
14	事前の備えが重要と感じた。
15	災害時を想定して日常時からの備えの重要性について、たいへん参考になった。
16	災害ゴミ発生時の処理の流れについて理解しやすいスライドがあり参考になった。
17	災害廃棄物のごみ収集運搬方法について、3パターンにわけて解説されており参考になった。
18	事業所から出る災害廃棄物の処理については、一般廃棄物収集運搬許可業者との調整が難しそうだと感じた。
19	災害ごみ対策の人員体制、自治体による運搬体制の事項が参考になった。
20	災害廃棄物の排出実態について把握することができた点について、関心を持つことができた。
21	4月から廃棄物行政の担当課に配属となったため、災害廃棄物処理についての概要がつかめる内容であり、非常に理解が深まった。
22	世界的にみて、日本の河川が非常に氾濫しやすいというところは非常に驚いた。危機感を強く持つきっかけになった。
23	・近年の災害の発生状況及び処理状況 ・災害等報告書に添付する書類（特に写真は必要以上撮る）
24	仮置場選定、災害時の住民への周知等の事前準備や初期対応が重要であることが参考となった。
25	災害があれば、廃棄物が排出されるのはわかっていたが、何十万トン単位で出ていることを知り驚いた。
26	片付けごみの回収場所が3種類（家の前・集積所・仮置場）あり住民目線と回収目線でのメリットとデメリットがよく理解できた。自治体が管理していない集積所では混雑化することが予想されるが、そのような集積所にて火災等があった際の責任等がどのようになるか気になった。
27	災害廃棄物は普段扱っていない解体ごみや危険物等の産業廃棄物が大量に発生すること。自治体が把握していないごみ置き場ができる。
28	災害廃棄物処理の概要や平常時の備え等について、わかりやすく講義いただき有意義な研修であった。
29	災害時に発生するごみの内容や課題が少しイメージできた。回収方法など含め災害時にどんな対応をする予定か事前に把握しておく必要性を感じた。
30	“片付けごみ処理対策”の図と検討事項が別ページになっていてわかりづらかった。
31	仮置場の選定に際し、周りの住民からの反対があった時、住民の理解を得るいい方法があれば詳しく伺いたい。
32	収集運搬体制が参考になった。
33	災害発生後に開始すべき9つの行動は参考になった。その中でも事前の備えが必要な内容は、しっかりと準備しておく必要がある。
34	市町村が平時から自治会と集積所の設置検討や集積所リストの共有を行うには、具体的にどのような段取りが必要となるかについて、より詳しく聴きたかった。また機会があればよろしくお願います。（事前質問への回答ありがとうございます。P.36～52の「片付けごみ処理対策のページ、イラストや表付きで大変わかりやすかった。）
35	基本的なことからご説明いただいたので知っていた内容も多くありましたが、実際の事例を交えつつ、体系的にご説明いただいたので、頭の整理になり、とても分かりやすかった。

講演 2

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	実際の事例は参考になった。
2	自治体において初動の重要性についてよく理解できた
3	参考になった
4	発災後の現場の様子、仮置き場の状況などが動画で確認し、非常に参考になった。
5	仮置き場の状況
6	実際の事例における体験談、所感であったので自分事に置き換えてのイメージがし易く、理解が進んだ。
7	全て参考になった。
8	広報の日程など、具体的な日数が分かり、とても参考になった。
9	仮置き場の設置に関して被災状況からターゲットを明確にした設置が大切であることが大変参考になった。
10	参考となったこと 廃棄物集積場を一定の地域ごとに確保する必要性 廃棄物集積場での分別の必要性
11	住民代表との事前の連携をモデル的に行っている自治体があればご教示いただきたいと思う。
12	動画等での説明がありわかりやすかった
13	新しく仮置場を設置したのに活用しなかった事例が参考になった
14	災害廃棄物処理の実態の話が聞けて参考になった。
15	現場の状況が分かって、良かった
16	災害ボランティアに手伝ってもらおう際、どこまで手伝ってもらおうかをあらかじめ決めておくこと、また、ごみの分別区分の冊子はあるが、何が何ごみにあたるかを判断する難しさを見て感じて
17	過去の災害現場での動画はわかりやすく参考になった。
18	災害発生前の対処計画の立案から対処訓練及び訓練教訓事項の整理・反映の重要性についてよく理解できた。実際に被災を経験した自治体や環境省の教訓事項・反映事項等について今後学びたい。
19	実際の映像を通じて災害廃棄物処理業務への理解が深まり、大変参考になった。
20	自治体が管理しない仮置き場ができてしまった場合、その後の対応に苦慮しそうだと感じた。
21	現場の災害廃棄物の処理の動画を流しているときに大事な内容等のキーワード等が掲載される感じだと理解がしやすくなるかなと思った。
22	鯉ヶ沢町の災害廃棄物に対する対応について、実例を紹介いただけたことにより対応の方針について考えることができ関心を持つことができた。
23	実際の被災地での仮置き場の状況や、住宅前に集積された状況などが映像で紹介されイメージしやすかった。
24	災害廃棄物処理を経験された市町の職員さんの当時のお話を聞いたら、より具体的にイメージが付きやすいかなと感じた。
25	・災害ボランティアセンター ・補助金の対象とならなかった未使用の新しい仮置場
26	災害に便乗して持ってこられる不適正ごみ搬入者への対応についてより詳しく聴きたいと感じた。
27	災害廃棄物処理計画がなくても迅速に対応できる自治体もあるということが知れてよかった。
28	実際に鯉ヶ沢へ行った際の感じたことなど、現場での出来事をもっと聞きたかった。
29	鯉ヶ沢の仮置場の分別配置図や、動画の映像がリアルで分かりやすく参考になった。
30	実際の被災状況、仮置場の状況の動画があり、参考になった。
31	鯉ヶ沢町の被災時の状況や対応を知り、ごみ処理対応の視点で現場を見ることができ良かった。
32	災害時のし尿についてや災害時の廃棄物処理施設の状況についても聴きたかった。
33	大雨災害だけでなく地震の資料も深掘りしてほしい
34	「広報が良かった」とあったが、具体的にどのような広報の仕方だったのか。
35	新しい仮置場の設置を準備されたが活用されなかったとありましたが、災害廃棄物が想定以上に発生した場合は、使用していたのか？それとも違う場所を設置し使用する予定であったのか？
36	災害ボランティアへの申込時に断られたお手伝い内容の事例があったかどうか、より詳しく聴きたかった（恐らく、多くの社協が、「災害ごみのトラックへの積み込みや荷下ろし」は怪我が発生しやすいため、ボランティア業務としては受け付けないパターンが多いかと…）。また機会があればよろしく願います。（事前質問への回答ありがとうございました。）
37	実際の被災地のごみの排出状況や仮置場の状況を写真・動画を交えてご説明いただいたので、イメージがつきやすかった。ごみの排出方法や仮置場の運営で、上手いかなかった事例も聞いてみたいと感じた。
38	被災した町の職員が効率的に仮置き場を用意したのに国費の対象にならなかったということが衝撃的だった。どうすればそういう理不尽なことが起こらないのかを詳しく教えていただきたいかった。

講演 3

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	実際の事例は参考になった。
2	自治体に対しての支援体制やその内容について詳しく確認できた
3	参考になった
4	廃棄物対策職員が2人である当自治体にとっては、何とも実現可能性の低い内容であることだと改めて感じた。
5	全て参考になった。
6	動画を交えた説明で、訓練の様子が分かりやすかった。 音声の調子があまりよくなく、後半は聞き取りが難しかった。
7	国や防衛相からの支援制度があることを知ったので良かった。
8	モデル事業（滋賀・仮置き場）の動画がとても有用だと思った。
9	動画等での説明がありわかりやすかった
10	訓練の動画が見れて、訓練後の意見が聞けて分かりやすかった。最近あった石川県の地震の状況についても聞けて良かった。
11	災害廃棄物処理計画ができていない市町村への支援を続けて欲しい
12	搬出のことで考えた仮置き場での動線が重要と感じた。どこまでを被災した住民に負担（可燃、不燃など分けた仮置き場を何か所か設置するといった）してもらうかの線引きが難しいと感じた。
13	災害廃棄物処理支援員制度について、たいへん参考になった。
14	府県提案型モデルで紹介された取組は、自治体職員や住民にとって被災した際の行動をイメージアップするため有効であることがよく理解できた。
15	平常時の啓発や訓練が非常に参考になった。
16	災害廃棄物に便乗して排出されるご家庭のごみに関して、受け入れないわけにはいかない現状もあるのだと理解はしましたが、何とか納得できる方法はないのかと考えさせられた。
17	災害関係の補助金制度の内容に興味をもった。
18	災害廃棄物処理支援員制度が存在すること、その実態について知ることができた点について関心を持つことができた。
19	災害廃棄物処理支援員の役割や苦労話が聞け、理解が深まった。また、各自治体で実施しているモデル事業についても映像つきで紹介いただき、今後の取り組みの参考にさせていただきたいと思った。
20	実際に災害が起こったと仮定して、どのように進めていくか、一緒に確認できるような研修であるとより分かりやすいなと感じた。
21	・支援ネットワークの体制及び実績 ・近畿ブロックでの活動実績
22	参考となる資料元を掲載いただいたので参考になった。
23	仮置き場への災害廃棄物搬入訓練の動画にて、廃棄物によっては積出作業の人数が更に多く必要な場合もあると思うが実際の場合は何人で行うのか、またトラックの荷台から廃棄物が落ちないような工夫などをおこなうのか気になった。
24	どのようなモデル事業をされているのか、仮置き場への災害廃棄物搬入の様子などの動画がありわかりやすかった。
25	災害廃棄物処理支援ネットワークの支援体制があることを知らなかったので参考になった。
26	モデル事業での実地訓練の動画の様子がとても参考になった。今後は、図上演習に加え、市町村と共同でこうした訓練も必要になってくると改めて思った。（事前質問への回答ありがとうございました。市町村からも人材バンク推薦がないかどうか、今後、府県主催の勉強会や図上演習等で周知していこうと思う。）
27	近畿ブロックにおけるモデル事業の具体的な内容について、今回紹介いただいた事例以外のものも、動画等により詳しく知りたい。（モデル事業の活用を具体的に検討しやすくなるため）
28	モデル事業の訓練動画
29	訓練の映像（特に、滋賀県の「仮置き場」の訓練）について、実際の運用上の課題等をイメージしやすく、とても良いと感じた。

講演 4

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	査定に関する内容について確認できた
2	少し参考になった
3	補助金申請のための必要事項について参考になった。
4	有事の混乱の中では、水害その時や仮置き場現場の写真等を細かに撮影しておくことは、現状の当自治体の職員体制から考えて無理だろうなと感じた。
5	全て参考になった。
6	補助金の申請について、実用のために必要な情報を詳しく聞けて良かった。
7	緊急対応時での記録保存は大変であると感じているが、後々を考えると役割分担を事前に決定し、備えておくことが大事であると改めて実感した。
8	補助を受ける際の留意事項で、必要書類、データ、写真等の担当を設ける必要性を感じた。
9	写真の重要性について理解できた
10	し尿処理に関する情報はこれまで知らなかった、添付資料の内容が詳しく参考になった
11	補助金事務の概要について聞けて良かった
12	一部事務組合の施設が被災した場合、市町村、一部事務組合のどちらが補助申請するのかわからなかった
13	写真の必要性を実感するとともに、ブルーシートや虎ロープなど使用実績が不透明なものは減額される可能性があることをあらかじめ知れてよかった。
14	補助金を適正に漏れなく受けるために注意すべき点について理解を深めることができた。
15	災害発生時に、その後申請する補助制度のことを考えて記録や写真に残す等、冷静な行動をしないといけないと感じた。
16	災害時に補助金を利用するための報告書について参考になった。
17	補助金の減額例を提示していただけたことで、実務の参考となった。
18	補助金や交付税措置による自治体の実質負担に関して、GND基金の話があったが、GND基金についてももう少し詳しい話を聴きたかった。
19	報告書の添付資料や制度について、非常に分かりやすかった。
20	全ての項目について参考になった。 特に災害等報告書に添付する書類について
21	補助金制度をうまく活用する方法について参考になった。
22	減額された具体例をお示し頂いた部分について、先に説明された内容への理解がより深まるもので、とても良いと感じた。
23	災害廃棄物処理に関して交付率ほぼ100%に近い交付税があることを知って、安心した。
24	購入したものを使用している写真等がないと補助金が出ない例があるとおっしゃっていたが、購入数が多い場合や予備のことを考えて少し多めに買うことが予想されるが、その費用も実際には使用していないという点から補助金はおりないのか
25	補助金の申請には撮りすぎるぐらい写真を残しておくことが重要。
26	写真がとても重要な資料となること、写真等で使用の事実が確認できないと減額になることなど参考になった。
27	補助金申請に写真が大きな役割を担うことがわかり、都度現場の状態を写真に残す必要性がわかった。
28	し尿等補助率の考え方、現場写真や証明が必要なのは理解は出来るが、災害時に書類が多すぎると思った。
29	補助金制度を活用するために必要な書類について詳しく聴きたい。
30	申請の仕方が参考になった
31	補助金の要件や注意事項など今まで漠然としていたがイメージするのに役立った。
32	災害等廃棄物処理事業費について参考になった。
33	災害査定においては、写真があるかないかで補助金が減額されるかどうかが決まることもあると知り、写真を撮ることがまず重要であることが改めてわかった。(事前質問への回答ありがとうございました。)
34	被災した際の記録(写真など)が重要であることが分かった。初動対応に追われて記録を忘れてしまうこともあるかと思うので、事前に知れてよかった。

⑥災害廃棄物処理対応を行ううえで不安を感じる点

不安を感じる内容のうち、最も多く意見があったのは「経験・知識面」(39人、46%)で、次いで「業務に投じる時間」(21人、25%)、「関係部局との連携」(16人、19%)であった。

図表 6-9 災害廃棄物処理対応を行う上で、不安を感じる点

経験・知識面

番号	不安を感じる点
1	すべてにおいて不安
2	廃棄物処理担当初年度なので、発災時対応に遅れが出ないか心配
3	一般的な廃棄物処理の現場と災害時の現場との違いについて経験、知識がないため、おおいに不安を感じる。
4	経験不足
5	経験がないため、実際の現場でマニュアル通りいかなかった時などが不安。
6	4月に異動してきた身であり、かつ中堅職員が抜けているため何もわからない。
7	異動したばかりなので、経験・知識ともに乏しく、体制的にも不安に感じることはある。
8	災害処理の補助を受ける際は、報告書を提出した後に査定の流れになるが、事前の連絡が必要かどうかかわからなかった。
9	計画上各部署に役割分担があるが、異動や退職により担当業務である意識が低くなっているの で、発災時に混乱するのではないか。計画の更新をどのような手順で行えば実務を担保できるの か。
10	人事異動等で過去の災害時における経験者が在籍していないことが不安
11	廃棄物処理に関して、基本的な知識もまだ活用できていないため不安がある。
12	職員の人事異動があるため、災害廃棄物についての計画などが進まない
13	経験したくはないが、経験がないことが不安ではある。
14	経験不足からの対応の遅れ
15	ある。軽度の災害発生に伴う業務等の経験がないため、大規模災害発生時の業務状況・業務の種 類・優先度に対する理解・経験が不足しているため
16	4月に現在の部署に異動してきたばかりで知識もなく、今災害が起きたら何ができるだろうと考 えさせられる。
17	一度も経験がないので、スムーズに実際に動けると思っていないから不安を感じる。
18	住民への周知がしっかりできているのかを確認する必要ある。
19	実務経験がないため、災害発生時の方針の提示や対応の初動が遅れる懸念がある点
20	現課で災害対応をしたことがないため、いざ対応するときになったときに正確な業務を行えるか 不安。
21	1年目につき、経験も知識もないことから不安。
22	部署異動したばかりで経験、知識ともに無いので現状はすべてが不安を感じる。
23	経験をしたことがない事象なので、被害の想定が難しいと感じる。
24	仮置場の運営と片付けごみの混廃化
25	職場にいる人間の誰もが、ほぼ初体験になるので不安はある。
26	新卒という点から知識・経験ともに不十分であり、その場に応じた対応や行政職として知ってて 当たり前であるものなどがわからないことが多すぎるため
27	災害経験がないため、漫然とした不安がある。
28	一廃 or 産廃の判断
29	廃棄物部局に配属されてから小・中規模の災害でも経験していないので、実際の現場がわからない。 い。
30	現在の部署に配属されて2か月なので、まだ一般廃棄物の処理も完全でないため。
31	全く異なる部署から異動となったので、平常時の処理に対する知識すら足りない。
32	異動してきたばかりなので
33	経験が全くない業務内容のため
34	災害廃棄物処理をまだ経験していないので、急にくるものなので不安
35	市町村の組織や通常時の体制などについて知識がなく、発災時に適切な連携ができるかどうか不 安に感じている。
36	災害現場に直面したことがないため、災害時に迅速な判断・対応ができるか不安。
37	今年度担当者となったばかりで、災害時以外の廃棄物の処理についての知識も全く無いため。
38	私の場合、知識面はある程度あるかもしれませんが、実際に処理対応を行った経験がこれまでな いため、実際に災害が起きたときに、平時から蓄えていた知識がうまく活用できるのかどうか不 安である。
39	災害廃棄物処理計画を策定してから大規模災害に見舞われたことがないため、迅速に初動対応が 行えるか、実際に計画通りに進められるかなどの不安がある。

業務に投じる時間

番号	不安に感じる点
1	限られた人員で、どのように関係機関と連絡調整を行い、どのように処理対応を行えるか等
2	実行計画の策定に頭を悩ませている。(策定担当者の人員不足)
3	災害に対する事前の体制、マニュアル整備など非常に重要であるが、他の業務との関係の中で十分に時間を確保できない。
4	繁忙さ、煩雑さ
5	時間が足りないので、自身の健康管理に影響がありそうで不安。
6	平常時に担当している業務と並行して、災害廃棄物処理対応業務を行う時間があるのか
7	通常のごみ収集だけでも大変に思うため、それに加えてということで業務ができるのか不安がある。
8	災害発生後の対応で、限られた人員で廃棄物処理対応することとなるが、特定の職員に負担がかからないか不安である。
9	大規模災害の際は、自治体職員自身も被災している場合が多いので、業務超過に対して体調の不安を感じる。他自治体の応援が決定し実際に職務についてもらうまでには、これまでの経験上、大変時間がかかる点が気になる。
10	通常業務に追われ、発災前の事前検討ができていない
11	通常業務と両立して対応を行う必要があるため、時間外勤務がどれだけ必要となるのか非常に不安がある。
12	他の業務に圧迫されて時間が取れない恐れがある。
13	どれくらい公務にあたることになるのか、その場合自分の家族はどうするのか、不安を感じる。
14	廃棄物収集場所が定まっていないため、対応に長時間要する可能性が考慮される点
15	災害が起きた際に、災害廃棄物処理の計画と実際の災害のずれが想定できない。
16	経験者の高齢化に伴う人材育成に投じる時間
17	許可の更新業務であったり、立入検査であったりも並行して行う必要が出てくるだろうと思うと、不安ではある。
18	規模にもよると思うが、初動にかかる時間が予想できない。
19	災害現場に直面したことがないため、災害時に迅速な判断・対応ができるか不安。
20	私の場合、知識面はある程度あるかもしれませんが、実際に処理対応を行った経験がこれまでないため、実際に災害が起きたときに、平時から蓄えていた知識がうまく活用できるのかどうか不安。
21	災害廃棄物処理計画を策定してから大規模災害に見舞われたことがないため、迅速に初動対応が行えるか、実際に計画通りに進められるかなどの不安がある。

効率的な業務の進め方

番号	不安に感じる点
1	不測の事態に陥った時、効率的に進められるかが不安。
2	中々効率的には進められないと思いますが、今後も研修などにより知識を高めたいと思う。
3	環境部署の人数に限られ、また、通常のごみ処理業務を行いながら災害対応することとなるが、ごみ処理に関する知識を有する職員が少なく、住民対応が的確にできるかどうか不安
4	慢性的な人員の不足に加えて職員自身の被災による人員不足
5	業務フローのとおりすすめられるか否か。
6	効率的に進められる自信がないので、不安に思う。
7	実務経験が足りない点
8	自治体に合わせたフロー等が必要かと感じるが現状無いので不安を感じる
9	実際に災害が起きたときに、市民がどのような動きを取るかは予想ができないので、起きてみないと分からないところはあった。
10	計画通り遂行することが出来るかわからない点。
11	災害等報告書の作成及び補助金の申請 特に、災害廃棄物処理の記録（写真撮影など）において、新たに記録する班を設置するべきか、また、撮影機材等の確保が必要なこと。
12	漫然と捉えているだけで、具体的な業務の進め方がわからないため不安を感じる。
13	昨年度策定した災害廃棄物処理計画と合わせて初動対応マニュアル（案）までの作成を終えてはいるものの、今後ブラッシュアップが必要であり、まだその作業に取り掛かれていないため。

関係部局との連携

番号	不安に感じる点
1	連携が未確定なので、災害担当部局との連携に不安
2	一部事務組合であるので、市町のような体制が取れない。
3	実態としてまだ把握していない。
4	関係部局についても、発災前の検討が十分にできていないと感じる
5	災害時はそれぞれの部局が、それぞれの災害事務に追われるため、自分の所管事務以外に非協力的であり、仮置場の候補地が定まらない
6	指揮命令系統の明確化
7	環境省や防衛省等合同事業を行うことがないので、連携がうまくできるか不安。
8	大きな災害発生例が近年ないため連携不足が懸念される点
9	1年目につき、経験も知識もないことから不安。
10	災害時円滑に連携が取れるか不安を感じる
11	相手側の部局も同じように業務を遂行しているため、連携を取るタイミングや反応の速さ等でズレが生じることに不安を感じる。
12	仮置場の選定について、防災計画のように災害廃棄物対策より先に計画を立てている事業があるため、事業用地の確保が難しい。
13	各部局にはそれぞれ役割分担があるが、人手が足りるか。
14	特に危機管理部門との連携や情報共有があまり図られていないと感じるため。
15	例えば市町村が府県有地を仮置場として使用したい旨連絡をしてきた場合、その土地が過去に現地調査をしていない場合、市町村とともに所管課へうまく折衝できるのかどうか不安。
16	マニュアルはあるものの、各部署において、実際に災害が起こった際に何をすべきかが認識されているか不安。(自分ごとになっていない。)

相談相手

番号	不安に感じる点
1	上司や他部署の方に相談するので、相談相手に不安は感じていない。
2	1年目につき、経験も知識もないことから不安。
3	市役所は異動が3～4年程度であり、また当市においては大きな災害を経験した者がいないので、相談できる相手がいないと思うので不安。
4	発生時には過去の経験者が身近にいないと思われる。
5	本市町村には災害廃棄物に関する有識者会議等がなく、何かあった場合にすぐに相談できる専門家とのつながりが薄い。

その他

番号	不安に感じる点
1	健康医療分野から環境分野に異動したばかりでまだ経験年数0年2か月ですので、これからが勉強だと思っている。
2	住民、自治会等の協力や理解
3	想定できていない。
4	搬入経路の確保(一般道での搬入経路が1つしかなく、災害や凍結等による通行が困難となる場合や、近隣に廃棄物処理施設があることもあり、渋滞発生による廃棄物処理の遅れ)
5	南海トラフ巨大地震等では周辺都道府県も被自治体となり、全国的な広域処理が必要となることが予想されるが、関係先との調整にすることがあまり想定されていないように思う。

⑦所属機関（団体）の災害廃棄物処理に関する協定締結状況及び締結先

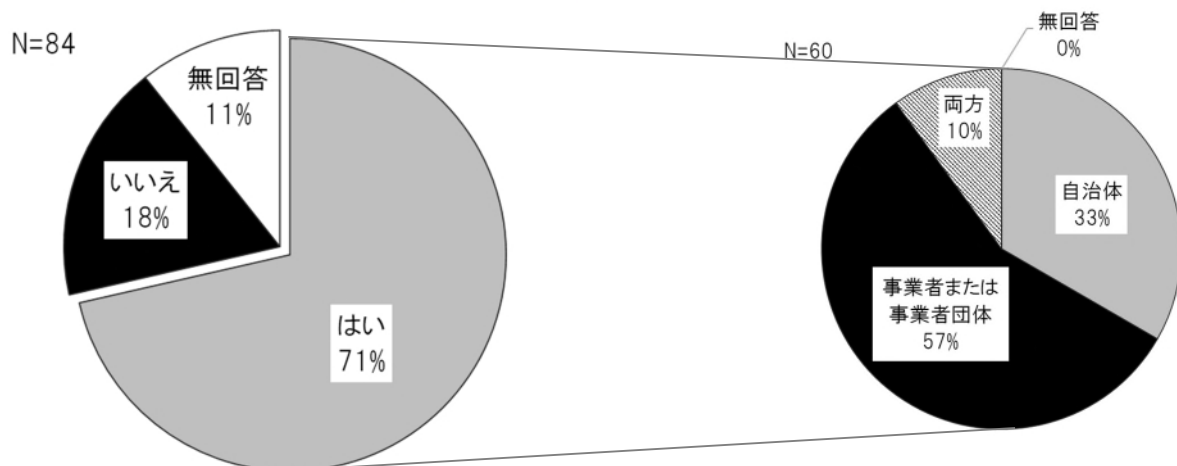
災害廃棄物処理に関する協定を「締結していない」と回答した団体が18%あった。

災害廃棄物処理に関する協定を締結している団体の割合71%で、締結先は「事業者または事業者団体」が一番多く57%であった。「自治体」の回答は33%であった。

図表 6-10 災害廃棄物処理に関する協定締結状況及び締結先

項目	回答数	回答率
はい	60	71% (100%)
自治体	(20)	(33%)
事業者または事業者団体	(34)	(57%)
両方	(6)	(10%)
無回答	(0)	(0%)
いいえ	15	18%
無回答	9	11%
合計	84	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



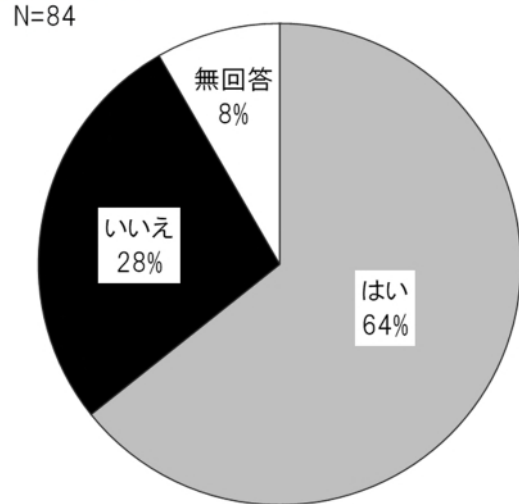
⑧災害時の対応準備状況

災害時の対応準備状況については、「はい（災害時にすぐ動ける準備がある）」の回答は64%、「いいえ」の回答は28%であった。

図表 6-11 災害時の対応準備状況

項目	回答数	回答率
はい	54	64%
いいえ	23	28%
無回答	7	8%
合計	84	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



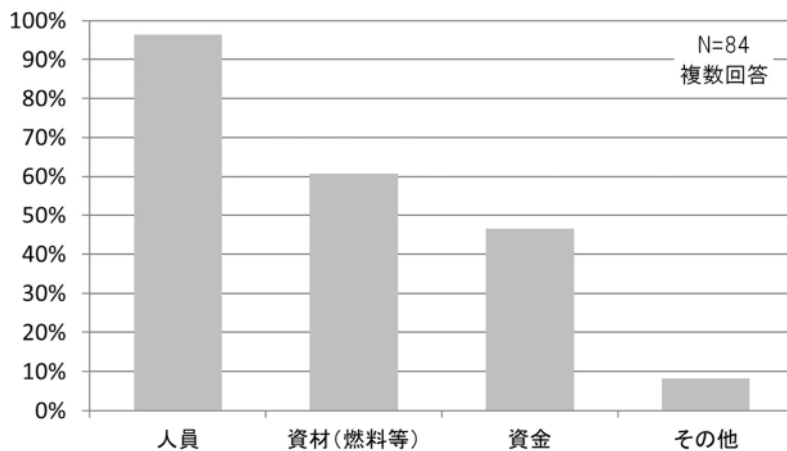
⑨災害時の人員、資材等の不足（複数回答可）

災害時不足が予想される物資等は、「人員」の回答が96%と最も高く、ほとんどの団体がこの項目を回答した。次いで「資材（燃料等）」が61%、資金が46%であった。

その他の回答は、「仮置場や集積所」、「専門的知識」、「情報」、「運搬車両」などの回答があった。

図表 6-12 災害時の人員、資材等の不足（複数回答、N=84）

項目	回答数	構成比
人員	81	96%
資材（燃料等）	51	61%
資金	39	46%
その他	7	8%

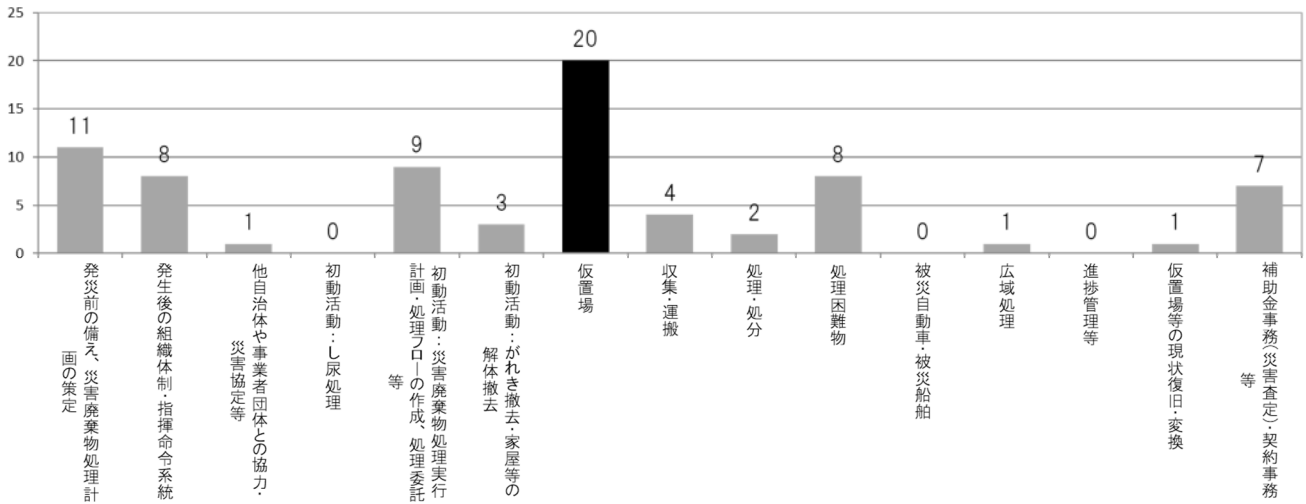


その他の内容
 ・ 仮置場や集積所
 ・ 専門的知識
 ・ 情報
 ・ 運搬車両

⑩災害廃棄物処理に関して関心のある内容

災害廃棄物処理に関し、特に関心のある項目は「仮置場」であった。その他の項目としては、「発災前の備え、災害廃棄物処理計画の策定」、「初動活動：災害廃棄物処理実行計画・処理フローの作成、処理委託等」の回答数が多かった。

図表 6-13 災害廃棄物処理に関して関心のある内容
 [特に関心のある内容] (1つ選択)



⑪事前に質問を募集する取組に対する評価

今年度は、説明会の開催前に、過年度の資料等を参考に事前に質問を募集する方法を取った。結果、1名からの質問を受け付け、その回答を説明会にて講演者より回答していただいた。本取組についての意見を確認した結果、継続を希望する意見が多く出た。取組に対する改善点としては、資料の入手後に質問を受け付ける期間が欲しい、説明会後に質問を受け付けて回答する仕組みを作って欲しい、などの意見があった。

図表 6-14 事前に質問を募集する取組についての意見

番号	取組についての意見
1	継続していただきたい。事例を中心に
2	継続したほうがいい
3	良いと思う。
4	継続していただきたい
5	勉強になった
6	当日資料を入手後に質問したい。また、講演後にも質問ができる環境を整えていただきたい。
7	継続が望ましい
8	継続でよいと思う
9	継続が望ましい
10	スムーズに進行できると思うのでこの形は良いと思う
11	継続が望ましい
12	あってもよいと思う。
13	継続が望ましい
14	継続してほしい。
15	講演前後いずれも質問できるようにしてほしい。
16	良い制度と思う
17	継続が望ましいと思う。
18	継続していただくと有難い。

番号	取組についての意見
19	良いと思う。
20	初任者に対する研修会なので、当日資料提供後であれば、なおよいと感じた。
21	今回の取り組みを継続してほしい。
22	今回と同様の取組が適当と考える。
23	チャットでの質問が管理者に締め切られていてできませんでした。 アクセスコードを当日に渡して、匿名で（会場でスマホでも）質問ができる仕組みが先日参加したNEW環境展 2023のセミナーで採用されていたので取り入れていただきたいです。
24	継続希望
25	事前質問の受付は賛成
26	継続が望ましい
27	よかったが、私自身は人事異動したばかりで、事前の質問ができなかった 研修会後にも、アンケートで、質問を受付いただき、後日、回答があれば、非常にありがたい
28	事前質問、当日質問の両方できることがありがたい。
29	継続されることがたいへん望ましいですが、申し込み時点ではなく、当日資料をもらった後に質問できるとさらに良いかと思われる。
30	自分とは違った視点で理解できるため継続を望む。
31	継続が望ましい
32	メモを取っている間に次の話題に進んでしまうことがあるので、事前質問は資料中に文字にしていたらありがたい。
33	継続が望ましい。資料に例年のQ&Aがあるとうれしい。
34	例①の通り、資料を事前に交付いただいた後の方が、より質問を考えやすいと考えられる。
35	今の形で引き続きお願いしたい
36	継続が望ましいと思う。
37	事前の質問制度は良いと感じた。
38	事前に質問ができるのは継続していただきたいと思う。 なお、資料についての質問も事前にできるとよいと思う。
39	継続が望ましい
40	継続が望ましいが、申し込み時点ではなく、当日資料をもらった後で質問したい
41	初任者のための研修にしては内容が難しく感じた。法令であったり、回収までの流れなど、知らないことが多いため理解することに時間が必要だと感じた。
42	来年度以降も継続していただきたい。
43	一年目のため事前に質問もわからなかったが他市の方が質問してくださったことは参考になった
44	来年度以降は、継続しなくてもよい
45	講演時だけではなく、常時各市町村の質問に応えられる体制があれば良いと思う。
46	継続が望ましい
47	今回は質問はできませんでした。質問を考える時間が長く取れるので継続がいいと思う。
48	継続されるべきだと思う。
49	事前に質問を考える時間があることは良いと思う。 一方で、説明を聞くことで疑問に思うこともあると思うので、その場での質問に答える時間も確保いただきたいと思う。

⑫今後のセミナーテーマ、感想など

説明会の感想としては、全体のイメージの把握ができたとの意見が複数あった。

図表 6-15 具体的に詳しく聞きたい事項、本日の感想等

番号	感想等
1	一通り、一気にお聞かせいただいたのが、良かった。ありがとうございました。
2	新規採用職員なので災害時の動きや一連の流れを理解できてよかった。
3	仮置場の必要面積・箇所の算定等について、詳しく聞きたい。
4	今回の研修で、災害に備える必要性をさらに感じた。わからないことだらけですが、漠然とではありますが少し理解できた。 これから、勉強し、不安を解消していきたいと思う。本日は、有難うございました。
5	災害について各市町村が主になって行うようになっていますが、県・国が中心に復旧すれば経験も蓄積され、災害に強い県・国が出来るのではないかと。市町村単位ですと経験の蓄積が他に反映しにくい状態になっていると感じる。
6	災害時に住民から出される災害ごみは、一時的に仮置場に排出されるが、実際に分別はしっかりされているのか？
7	研修を受けることで、改めて自分自身の知識を整理する良い機会になった。ありがとうございました。今後、仮置場の選定に当たっての周辺住民との合意形成の事例や仮置場の住民周知の方法について詳しく聞いてみたい。

(2) アンケート結果（課題別研修会）

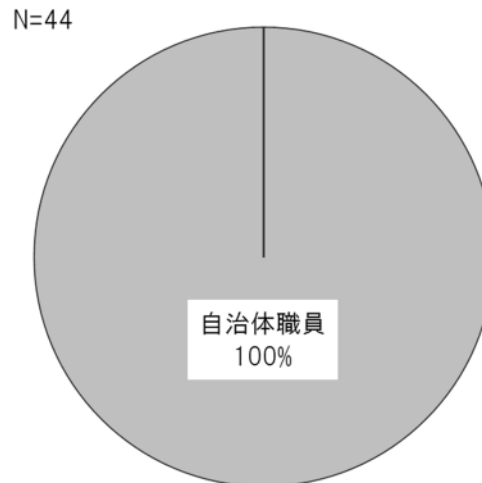
①参加者の所属

アンケート回答者は自治体職員が100%であった。

図表 6-16 参加者の所属

所属	回答数	回答率
自治体職員	44	100%
その他	0	0%
無回答	0	0%
合計	44	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



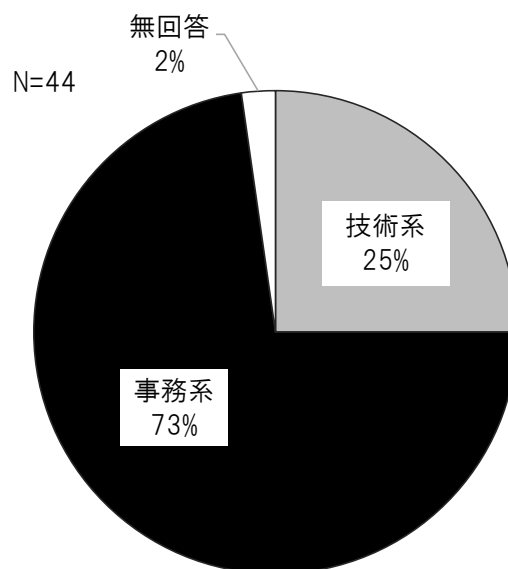
②参加者の職種

アンケート回答者の職種は、73%が事務系、25%が技術系であった。

図表 6-17 参加者の職種

職種	回答数	回答率
技術系	11	25%
事務系	32	73%
無回答	1	2%
合計	44	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



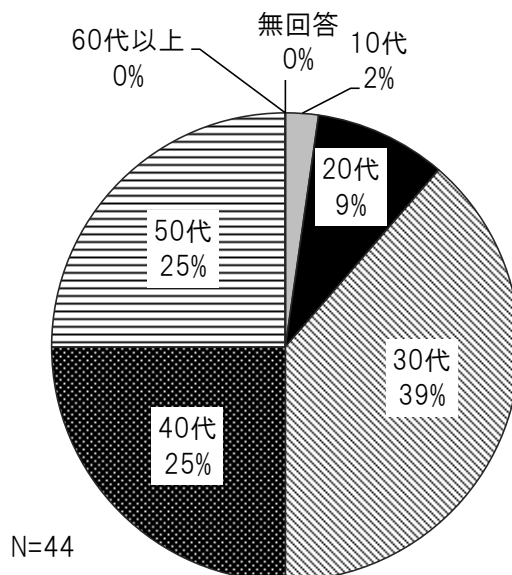
③参加者の年代

アンケート回答者の年齢は、30代が39%、次いで40代と50代が25%であった。

図表 6-18 参加者の年代

参加者の年齢	回答数	回答率
10代	1	2%
20代	4	9%
30代	17	39%
40代	11	25%
50代	11	25%
60代以上	0	0%
無回答	0	0%
合計	44	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



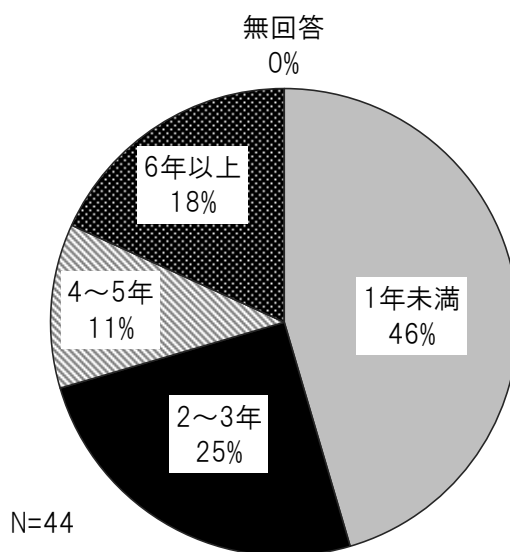
④参加者の現在の部署の所属年数

アンケート回答者の所属年数は、45%が1年未満、次いで2~3年が25%、4~5年、6年以上が18%であった。

図表 6-19 参加者の現在の部署の所属年数

参加者の年齢	回答数	回答率
1年未満	20	46%
2~3年	11	25%
4~5年	5	11%
6年以上	8	18%
無回答	0	0%
合計	44	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



⑤集積所・仮置場に係る選定や設置運営についての必要性に対して意識の変化

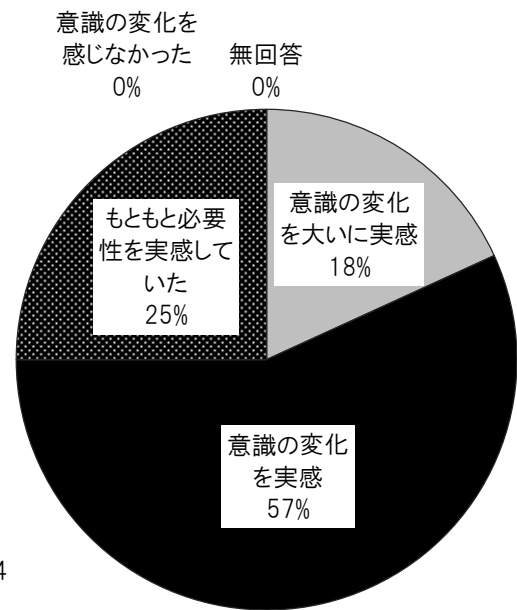
研修会参加前後の意識の変化は、研修会を受講し意識の変化を「実感」が57%、「もともと実感していた」が25%、次いで「大いに実感」した回答が18%であった。

研修会を通じて災害廃棄物処理対策の事前の備えに対する意識の向上につながったと考えられる。

図表 6-20 集積所・仮置き場に係る選定や設置運営の必要性に対しての意識の変化

項目	回答数	回答率
意識の変化を大いに実感	8	18%
意識の変化を実感	25	57%
意識の変化を感じなかった	0	0%
もともと必要性を実感していた	11	25%
無回答	0	0%
合計	44	100%

注) 四捨五入のため計が一致しない場合がある



N=44

⑥各講演に対して参考になった事項など

図表 6-21 各講演に対して興味を持った、参考になった事項等

講演 1

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
1	管理運営に必要な人数、必要面積、廃棄物区分、大型の搬出車両や重機の操作など仮置き場の実際について学べた。そのほか、リピーターが多いことや処理困難物の扱いや迅速な仮置き場設置の必要性とそのため事前準備が必要なのが参考になった。
2	仮置き場配置図自動作成ツールについて、利用したいと感じた。
3	仮置き場配置図自動作成ツールは、便利だと思った。
4	前もって準備をしていなければ、うまくいかないということは良くわかった。研修であったような仮置き場の候補地が当市では、なかなかない。
5	まずは仮置き場として利用できそうなオープンスペースのリストアップが必要だと感じた。
6	仮置き場の活用方法や平常時での備えについて参考になりました。
7	選定条件の認識が間違っていたので、参考になりました。
8	仮置き場配置図自動作成ツールを利用してみたいと思います。
9	仮置き場の選定が遅くれば、いろんな問題が起こるため速やかに仮置き場を設けなければならないと改めて認識をした。
10	仮置き場候補地評価シートの例と、候補地絞り込みにあたっての留意事項、仮置き場配置図自動作成ツールの紹介について、参考になった。
11	仮置き場の場所選定については、職場、職員による個別情報もかなり利用できる。鉄板をリースで先に確保しておくことで、仮置き場の設置がスムーズに行える。
12	仮置き場配置図自動作成ツールというツールの存在について、参考になった。
13	仮置き場の迅速な設置と分別して分けることの重要性が再認識できた。豪雨で仮置き場設置経験はしているが、規模が大きい災害になれば場所の選定、仮置き場の数など現状では漠然としており不安要素は残るが、迅速に対応できるように関係部署と共有・連携して進めていきたい。

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
14	住民への周知など事前準備の必要性を痛感した。
15	大変参考になった。本市に訪訪していただき、講義してほしい。
16	平時に検討・準備しておくべき内容が具体的にイメージできた。
17	仮置き場を設置したとしても、個別に対応できるところはできるだけ個別で回収するといった、マルチに対応することで仮置き場の負担を減らせる。
18	「仮置き場配置図自動作成ツール：kari-hai」は知らなかったため、非常に参考になった。選定手順を追って説明いただいたためわかりやすかった。
19	選定の重要性が参考になりました。
20	仮置き場配置図自動作成ツールという仮置き場を瞬時に作成できるものがあることに感動した。仮置き場1つ1つ配置図を住民の方に提供できそうだ。
21	候補地絞り込みで、用途競合していても、実際に使用されないなら仮置き場として候補に入れることを考えることが参考になった。

講演2（福岡市）

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
1	校区単位で集積所を設置（分別の正確性が増す）、渋滞発生、災害の規模、設置面積にもよると思うが仮置き場の数など参考になった。
2	研修にあった市町村以外の他市の事例も見て感じたが、仮置場のすぐそばに焼却工場があるのは処理を迅速に行う上で、かなり有用であると感じた。
3	仮置場内だけの待機スペースだけではだめで、外に並んだとのことで、住民搬入ができる場所は、どれだけ待込み車両があるか想定以上で、そのルートも十分検討しなければならないと思った。
4	仮置き場の事例について非常に参考になった。
5	仮置き場に設置した資料が参考になりました。
6	仮置き場の中でのルート確保が重要と感じました。
7	仮置場での掲示物の設置状況や事前準備について、参考に検討していきたいと思います。
8	仮置場への搬入車両による周辺道路の渋滞が発生するということが、参考になった。
9	仮置場を決定してから、早くごみを持ち込むことができ、しっかり分別もできている。
10	仮置場運営において、荷下ろし、受付等による渋滞の発生について、参考になった。
11	通常ごみの収集方式の違いや、密集地・過疎地が混在するごみステーションがある場合は、集積場で災害ごみを収集するのか、仮置場を設置するかは、講演2をみて集積場に災害ごみを出すと、收拾がつかない状態になるので設置し、災害ごみ受付体制を構築しておく必要があると再認識できた。
12	市街地と郊外・農地で集積所・仮置き場の設置や搬出方法をそれぞれ適した内容にするという視点が勉強になった。
13	搬入車両による渋滞は想定が難しいと思われるため、事例を知ることができて良かった。
14	2市の早い対応が参考になりました。
15	どのような手順を踏み、仮置き場を設置したかなどの流れをよく知ることができた。
16	直近の事例であり、処理施設を交えた仮置き場が参考になった。

講演2（秋田市）

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
1	仮置き場内の一方通行になるルートや廃棄物区分を正しく設定することが参考になった。
2	仮置場を閉鎖するに当たっても、先を見据えた対応を十分に行う必要があると感じた。
3	住民搬入の仮置場開設期間が、短いと感じた。
4	仮置き場の事例について非常に参考になった
5	仮置場の分別の難しさを感じた。上空写真は分別の参考になった。
6	綺麗に仮置きされている現場をみて、秋田の市民性も要素としてあると感じました。
7	仮置場の配置について参考となりました。また、夜間の不法投棄防止対策の必要性を感じました。
8	仮置場の不法投棄対策の必要性について、参考になった。
9	昼間においては、市の担当者が常駐するなどの適切な運営管理体制が取れている。
10	旧空港跡地など、広い仮置場であっても動線ルートを分かりやすくしないと駄目であることが参考になった。
11	過疎地と人口密集地の市町村では仮置場に設定できる土地がまずあるかないかで問題になって

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
	くるので参考になりにくい。
12	実事例を通して現場での課題などを具体的に知ることができた。
13	航空写真や動画でわかりやすい紹介があった。また、直近の事例だったので非常に参考になった。
14	仮置き場内の整理の重要性について参考になりました。
15	仮置場の良い例、悪い例を踏まえて仮置き場の写真を見ることができ、イメージしやすく良かった。
16	直近の事例であり、動画もあり、状況が伝わった。

パネルディスカッション

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
1	仮置場設置を想定した訓練の実施、災害廃棄物ハンドブックの見せ方が参考になった。
2	被災者目線でパンフを作成や、つぶやきの内容はなるほどと思った。これを理解することも必要と感じた。
3	茨木市さんの発言が非常に参考になった
4	高田様の最後のまとめが、非常にわかりやすく参考になった。
5	市民への周知資料の作成方法は大いに参考になりました。
6	仮置場への持ち込みが1回で終わる人は少ない。片付けは肉体的にも心理的にも重労働。分別の必要性については、必ずしも否定的、無理解ではない。
7	わかりやすかったと思う。災害対応したことのある市町村は理解できる。災害対応を経験していない、または担当が数年で変われば一から理解しないといけないので、どのように共有するかが重要だと感じた。
8	災害廃棄物訓練のポイントについてわかりやすかった。災害ハンドブック作成について今後の参考になった。
9	滋賀県の訓練内容や茨木市のパンフレットに対する考え方、高田先生のつぶやきのいずれも参考になった。
10	経験者もしくは、知識の多い方々のお話を伺うことができ、参考になった。注意するポイントを知ることができた。
11	茨木市の読まれないハンドブックのお話、参考になりました。
12	災害廃棄物ハンドブックを参考に廃棄物について考えを深めることができた。
13	文章ではわかりづらい話も聞いて良かった。
14	被災者の心情や疲労も考えないといけないという言葉が今まで自分の意識になかったので参考になった。

⑦研修会の感想など

図表 6-22 具体的に詳しく聞きたい事項、本日の感想等

番号	感想等
1	全体を通してマイクの位置が遠いのか声が非常に小さく聞き取り辛かった。仮置場の写真、特に上方からの写真が非常に参考になり、当市町村で設定した仮置場のレイアウトと比較したり今後の仮置場のレイアウト設定等に活かせるものだったのでありがたかった。
2	貴重な話をありがとうございます。集積所についての事例をもう少し詳しく聞く機会があればと思います。集積所の設置運営、集積所と各戸回収のメリットデメリット・地域特性による可否(集合住宅はだめなど)
3	仮置場設置後の運営や排出についてももう少し詳しく聞きたい。
4	都心部での災害時の事例を紹介してほしい。
5	今日は「廃棄物」ということで「環境」がメインであった。この講演会を「防災」「公園」部局にも送付してほしい
6	最後の高田先生のコメントも大変参考になりました。ありがとうございました。
7	個人的には災害対応の経験がないため、経験をした方々が肌で感じた事例を知ることができて良かった。今後の業務に役立てていきたい。
8	仮置き場選定に置いて自治会等への理解をさせる手段。